

第三章 多摩市民を支える中央図書館

この章は、全市の図書館サービスの充実を支えつつ、高度専門的な情報や多様な活動の場を提供する中央図書館像を提言しています。

3-1. 中央図書館整備の「使命」そしてあらたに

3-2. 基本的図書館サービスの深化と

高度に専門化された新しいサービス

3-3. 中心地区につながる開かれた中央図書館

3-4. 市民協働で「もの」と「こと」のデザインを

3-1. 中央図書館整備の「使命」そしてあらたに

- (1) 「知の地域創造」センターとしての位置づけを踏まえつつ、中央図書館としての役割・使命をはたします。
来館する市民に対しても、バックアップする地域館に対しても、高度な専門性をそなえた中央図書館として、これまで到達できなかった役割をはたします。

※出典：平成22年4月
多摩市立図書館協議会
「多摩市における中央図書館
機能およびその整備のあり
方について(答申)」
1, (総論)より

多摩市の中央図書館整備にあたっては3つの柱を念頭にと、図書館協議会は提言をした。

- ① 多摩市の図書館システムの中核として、7つの地域館と結び合い、その活動を支えます。
- ② パルテノン多摩との連携も図りつつ、多摩市の文化・情報・教養活動の基地となります。
- ③ 学校との連携も含め生涯学習の拠点となり、市民のコミュニケーションの向上に役立ちます。

少子高齢化の進む多摩市の将来を考えたとき、高齢者にとって住みよい都市づくりはもちろんのこと、若い世代にとっても魅力的で、とりわけ子どもを育てるのにふさわしい都市づくりの視点を欠かすことはできません。

幸い多摩市は豊富な自然環境に恵まれているうえ、多くの大学が集中する地域内に位置し、さらに芸術・芸能を発信する「パルテノン多摩」という貴重な施設を持つ文化水準の高い都市といえるでしょう。しかし、そうした中で活字文化や情報収集の拠点となる図書館の現状は、とても十分とは言えず、より魅力的な文化都市を創造してゆくためには、新たな「本の館(やかた)」というべき中央図書館を建設し、サービス内容を質量ともに深めていくことが求められます。(答申総論より)

- (2) 中央図書館は、資料を提供する役割に留まらずに、市民の多様な活動の場、出会いの場を提供します。「都市の広場」、多様な世代の「居場所」となります。

① 子どもたちにとっての「喜びのひろば」

それは、子どもたちにとっては、かつての、はらっぱ、かみしばい、おまつりひろば、にかわる生きる喜びに出会うひろばになるでしょう。出会うことが、知る喜びの入り口にあり、中央図書館は、そんな広場を提供するのです。

- ・ベビーカーで立ち寄れる子育て広場。
- ・ゲームや遊びも取り入れた、にぎやかなスペースもとりいれたい。
- ・じょうぶな絵本、障がいのある子どもにマルチメディアサービス。

② ティーンズにとっての「たまり場」

それは、十代の若い人にとっては、流行の、おしゃべり場、自由広場、ラーニングcommons、であり、新しい意味での学習スペースといえるでしょう。中央図書館は、若い人たちに居場所を提供するのです。

- ・多摩市が舞台のアニメ、マルチメディア資料。
- ・映像、音楽、コンピューターグラフィックスなど若者が自ら制作できるICT環境。
- ・グループ学習や自習スペース、ラーニングcommons機能など、

③ おとなにとっての「知の広場」

若者の居場所。

それは、時間にゆとりのある高齢者ばかりでなく、働き盛りの壮年達にとって、ひとりの居場所、出会いの場所、知る喜びの場、生き抜いてゆくための知的トレーニングジム、おだやかさを取り戻すラウンジ、といえるでしょうか。中央図書館は「サードプレイス」を提供します。

- ・充実のレファレンス・日常市民の課題解決。
- ・ビジネス情報支援
- ・働き盛りのための図書館・多摩の地域資料/行政資料・文化財展示。
- ・ニュータウンアーカイブ・カフェ・自由広場・集会・展示。



本に出会い、ものに出会い、人に出会い、自分を確かめるひとりでふと我に返る環境。緑陰の読書テラスへの要望は基本計画や設計の段階で実現への検討がされるでしょう。



図書館の中庭ひろばでボランティアが人形劇



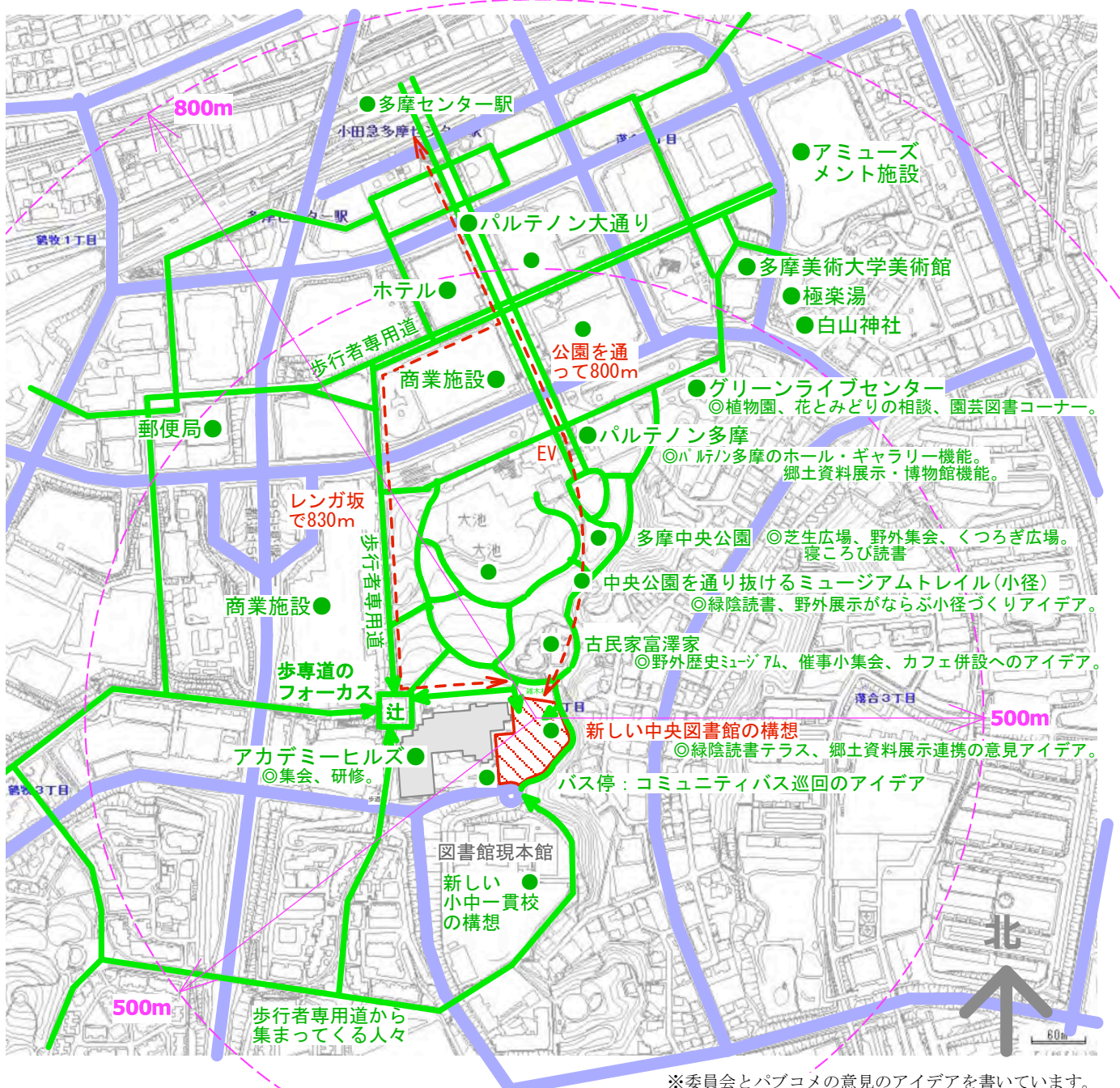
ティーンズのたまり場、ラーニングcommons



ひろば型の開架室でイブニングコンサート

(3) 「知の地域創造」センターとしての多摩センター中央公園エリアに中央図書館が配置されて、全市に向けたその役割・使命をはたします。

中央図書館がこの敷地に配置された環境を想像して、基本構想が議論されました。公園側からアプローチしてゆくときの風景や活動の見え方が大切だと話されました。北側から逆光で図書館正面に向かう形では、明るい印象づくりの工夫が必要と意見が出ています。図書館の中だけでなく、緑陰の読書テラスや、周辺の緑に突き出した読書バルコニーの魅力も話し合われました。夜間も集会や展示に利用できるゾーンは公園に開かれて光があふれていたり、教室のように机がただ並ぶのではなく、グループで三々五々に集えるラーニングコモンズも紹介されました。三次元プリンターのある図書館のメーカースペースも最近の話題です。関戸や永山の駅前図書館とは異なる、図書館活動の奥行きと広がりが想像されました。



「知の地域創造」センターイメージエリア。魅力要素の配置

3-2. 基本的図書館サービスの深化と 高度に専門化された新しいサービス

多摩市の図書館システムの中核として、また7つの地域館と結びあい、その活動を支えるとして、4つの担うべきサービスについて述べています。(図書館協議会)

(1) 「専門性が深化し充実した基本的図書館サービス」

- 1、各方面の資料、専門書を集め、資料世界の構造化と展示表現を磨きたい。
 - ・資料規模は大きく、できるだけ開架展示を。公開書庫方式も研究したい。
 - ・全国で先行している図書館の試みを研究、長期的展望で資料収集と構築。
- 2、充実したレファレンスを。日常の市民の課題解決、ビジネスへの情報支援。
 - ・職員集団の参考相談業務の技術研鑽方式を、先進市を参考に研究したい。
 - ・多摩市独自の地域資料、行政資料を充実させてアーカイブ化に導きたい。
 - ・市民生活に関わるさまざまな課題解決の役に立つ図書館をめざしたい。
- 3、マルチメディアの資料を導入し蓄積したい。
 - ・音声映像のCD、DVDなどを、主題別に混配し構築したい。
 - ・多摩市に関わるアニメや、漫画表現の主題資料も検討する。
 - ・地域館でも利用できる雑誌新聞、有料データベースを拡大。
- 4、ICT（インターネットやコンピューター技術）を導入したい。
 - ・ICチップを資料管理に加えて、混配表現導入を研究したい。
 - ・自動貸出、予約本セルフコーナーなどの展開を研究したい。
 - ・専門的データベースを含むデジタル情報資源の提供を検討。
- 5、市外の図書館ともこれまで以上に連携し、役に立つ図書館に。
 - ・京王沿線七市連携の相互利用制度を発展させていきたい。
 - ・市内大学図書館と連携して、大学を多摩市のコミュニティメンバーと考え、サービスと協働の可能性を研究したい。

(2) 「全域奉仕・地域館支援・アウトリーチサービス」

- 1、地域館と学校へのネットワークに力をいれたい。
移動図書館にかわる配本車導入など実物支援を充実したい。
- 2、来館困難な方には宅配システムでご希望の本を届けたい。
広い意味でのバリアフリーな図書館アクセスをめざしたい。
- 3、幼稚園保育園、病院、老人施設ともつながるを目標としたい。
でかけてゆく、とどける、つながる、をめざしたい。

(3) 「全市図書館システムのセンター機能」

- 1、蔵書構築と情報管理、資料保存機能、高度なレファレンス、人的資源の編成と管理、地域館運営の拠り所として働く。
- 2、ICT導入で、情報の流通や資料管理を整えます。
全市の図書館資料が共通MARCであることの強みを生かす。
- 3、利用者グループや友の会など市民との協働を受入れたい。
図書に寄贈呼びかけ、受入れて、市民と一体化したい。
- 4、小中学校を支援し、学校図書館の活動拠点になりたい。
教職員への支援や、児童生徒の貸出密度活性化を支えたい。

(4) 「多様な市民と活動を支えるサービスと場の提供」

- 1、施設のバリアフリー対応は、新しい法律に準拠をしてゆく。
弱者のアクセスを助けるミニバス循環を併行し検討したい。
- 2、催事企画もコミュニケーションサービスとして重視したい。
他市図書館のコミュニティ担当の業務を研究しておきたい。
- 3、展示やカフェなどの交流機能を、施設計画時に検討したい。
市民やグループが自由に使える集会や展示の場を造りたい。
- 4、自由な集会機能、ラーニングコモンズ、ボランティア活動室など図書館を舞台にした市民活動の場を、複合的に計画。
- 5、外国人や文化的背景が多様な利用者を想定し、外国語資料(絵本)や日本語習得資料、生活リテラシーなど多文化サービスに取り組みます。

※出典：平成22年4月
多摩市立図書館協議会
「多摩市における中央図書館機能およびその整備のあり方について(答申)」
「4. 中央図書館の役割とサービス」P5～P8より
多摩市の中央図書館機能の必要性とその整備のあり方について、図書館協議会は提言をしています。
図書館システム全体を俯瞰しつつ左のような課題を上げています。
基本構想では4つに再編して整理しました。

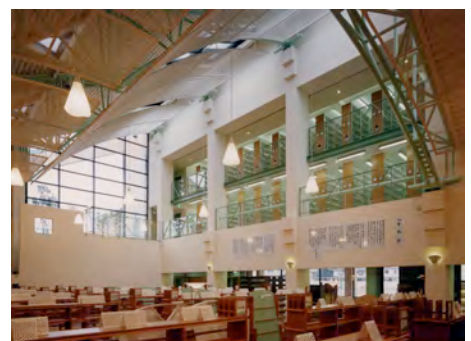
※ICT環境にはプリンターの連動など制作環境も必要。



静かな目、平和な心、おだやかな資料世界



ブックコンテナで700冊を乗せて出掛ける配本車



開架室の奥、見えて入れる公開書庫という形式



ギャラリーフリースペースで、小学生の管弦楽

さらに、各地で取り組み始められている専門化されたサービスが紹介されました。ICTなどの技術革新は、働き方、生活課題、学び方に変化を要求しています。また、社会関係の変化も個人に対応をせまります。「時間があるから行く図書館」ではなく「忙しくても行く必要のある図書館」、「時代と社会の変化を整理して課題解決型図書館」が、事例と共に基本構想策定委員会で議論されました。

(5) 「時代が求める高度で専門化された図書館サービス」

①. 「自己判断自己責任」型社会への移行は、あらたな「格差」をつくっている。

企業や行政だけでなく個人も変化する社会に対応してゆくには、自ら調べ考え判断する行動様式が求められるが、「正確な情報が公平に提供される」社会のインフラが必要になる。図書館は、これまで以上に情報提供の社会インフラとしてのサービスを深化させていく必要があると想像される。

②. 市民の情報環境は変化し、従来の情報システムには限界がみえている。

読書のかたちは、通読型だけでなく、並列型、ピックアップ型、情報収集型に移行するが、マスコミ、出版流通、インターネットは情報システムとして限界を露呈した。専門書は流通が稀少で入手困難、インターネットは体系的網羅的な知識や考え方に対応しない。マスコミ情報の海に対峙する図書館が必要だ。

③. 発生する「課題」は複合的であり、公立図書館特有の総合性が有効となる。

文科省の社会教育調査で、公共施設の中で図書館が最も利用が多いとわかった。どう使えるかが周知され、出会いの広場であることも要因だが、人生で起こる問題は複合的で、個別専門的相談機関では役に立たない。総合的な分野の情報がストックされた図書館はワンストップ相談窓口、あとは使い方相談が必要だ。

④. まちづくりや医療介護分野に「課題解決型サービス」が各地で展開されている。

- 農林漁業・地元企業・商店への仕事情報提供、勤労者再教育などビジネス支援サービスは、資料を越えて関連機関と共同した相談・講習・催事・事業に展開。
- 地域への医療介護情報の提供では、インフォームドコンセントの為のセカンドオピニオンとして拠点病院の情報提供や自治体の医療費削減政策と連携する。
- 訴訟社会への動向に、地域への「法律情報提供サービス」が米国ではみられる。
- 行政首脳や各部門へ、政策判断・研究に資する情報提供や調査レファレンス、行政事務の効率化や職員の自己研修支援など「行政支援サービス」といわれる。
- 市町村議会議員の活動を情報収集・政策作成面から支援するサービスがある。
- 行政庁舎や行政資料室は土日閉庁であり、図書館が行政情報を市民に提供する。
- 乳幼児・児童の言語能力の育成、青少年の論理的思考能力の向上、成人労働者の情報リテラシースキルの習得、デジタル社会での就業スキル習得支援など、福祉・教育・労働など他部門の「行政施策と関連し連携する図書館サービス」。

⑤. あらためて、市民一人ひとりの課題を解決できる図書館の条件を掲げたい。

- 情報の専門職「司書」が必要な人数採用され、市民の情報収集をサポートする。
- 娯楽的教養的な目的だけでなく専門的多面的な方針で、本、雑誌が収集される。
- 有料のデータベースや電子書籍、AVマルチメディア資料が、無料で提供される。
- 近隣都市連携のように、都立、国会、大学図書館と盛んな相互利用を仲介する。
- 市民が自由に交流・活動し、創造につながる支援までサービスの視野に入れる。
- 館内にWi-Fi、電源などを整備して、PCの利用環境を整備する。

※出典：平成28年10月
第五回多摩市立図書館
本館再構築基本構想
検討委員会より

※地場産業や商品を応援する
地域振興ではなくて、知的
な地域再生を支援するのが
これからの図書館の使命だ。

※米国シアトル図書館には、
400台のPC端末が並んでいる
が、インターネットでは
なくて、有料データベース
利用を市民は目的にする。

※ビジネス支援はあたらしい
図書館サービスの概念では
ない。個人の自己実現を、
図書館という組織が使命と
考えているということだ。

※鳥取県立、秋田県立、
都立中央、浦安市、立川市、
田原市、広島市、小山市、
塩尻市、伊万里市の事例。

※がん対策基本法、
※医療専門司書の存在、
※信大医学部図書館と松本
図書館、がん研東病院と
柏・流山・野田図書館の
連携。図書館の医療相談
デスクに看護師がいる。
※浦安図書館は2病院に本
を届け、患者の明るい気
分づくり読書を支援する。

※日野市、浦安市、ほか
議員別に政策チラシの
ファイルが作られている。
※行政書士とも連携する。

※浦安市図書館のAV資料数、
有料データベース資料と
比較研究が分かりやすい。

※塩尻図書館にあるフリー
スペース（公共図書館の
ラーニングコモンズ）、
3次元プリンターのある
メーカーズスペースなど
創造活動支援も図書館だ。

※多摩の図書館では2010年
から有料データベースと
して大宅壮一文庫の Web
配信。（雑誌1万種70万冊
索引500万件の過去資料）

※利便な駅なか図書コーナー。
浦安市立図書館は、市内
3駅に高齢者雇用の奉仕
拠点を持つ。年間貸出数
は20万冊、全市の貸出
200万冊の10%を担う。

3-3. 中心地区につながる開かれた中央図書館

(1) 中央図書館の敷地（候補地）に求められること

多摩市の中央図書館の敷地選定にあたり、都心部環境との関係づけの視点から、図書館協議会は提言をしています。そこでは、必要な条件が整理されています。

- ① 図書館建築の開架室には十分な広さが必要で、これを可能とする敷地。
 - ② 図書館の周辺用途や道行き環境には、ふさわしい環境がのぞましい。
 - ③ 公共交通機関から徒歩で行ける距離で、アクセスしやすい道行きがのぞましい。
 - ④ 利用者や運營業務の車が行ける道が必要で、十分な駐車場がとれるとなお良い。
- このたびの候補地は、施策の工夫次第で、4つの条件が満足されると思われます。

(2) 中央図書館候補敷地と周辺のつながりのイメージ

- ・敷地は公園や歩行者専用路に囲まれた、約6000㎡のフラットな切り土造成の安定した敷地です。緑に囲まれて交通や雑踏の騒音のない落ち着いた環境です。
- ・用途地域は第二種住居専用地域、建蔽率60%、容積率300%、緩い日影規制。
- ・建築面積は3600㎡まで可能ですから、図書館開架は2層で構成できて理想的。
- ・敷地内には、駐輪場のほか駐車場は100台以上必要に思われますが、図書館計画を破綻させずに配置や動線を工夫して、魅力的な都市環境の一部としたい。
- ・敷地や施設を公園に開きつなげるために、中央公園の隣接部側での竹木の整理や築山のしつらえの再整理などが望まれると、基本構想で議論されている。

駅前の商業施設群プロムナード、パルテノン多摩、多摩中央公園、中央図書館へと、多摩市の中心市街地環境がつながり、賑わいのゾーンがひろがっています。中央公園の緑のむこうに、図書館にはふさわしい落ち着いたアカデミックな施設が並びます。ガラス張りの図書館内の活動が公園から見えると楽しい情景です。

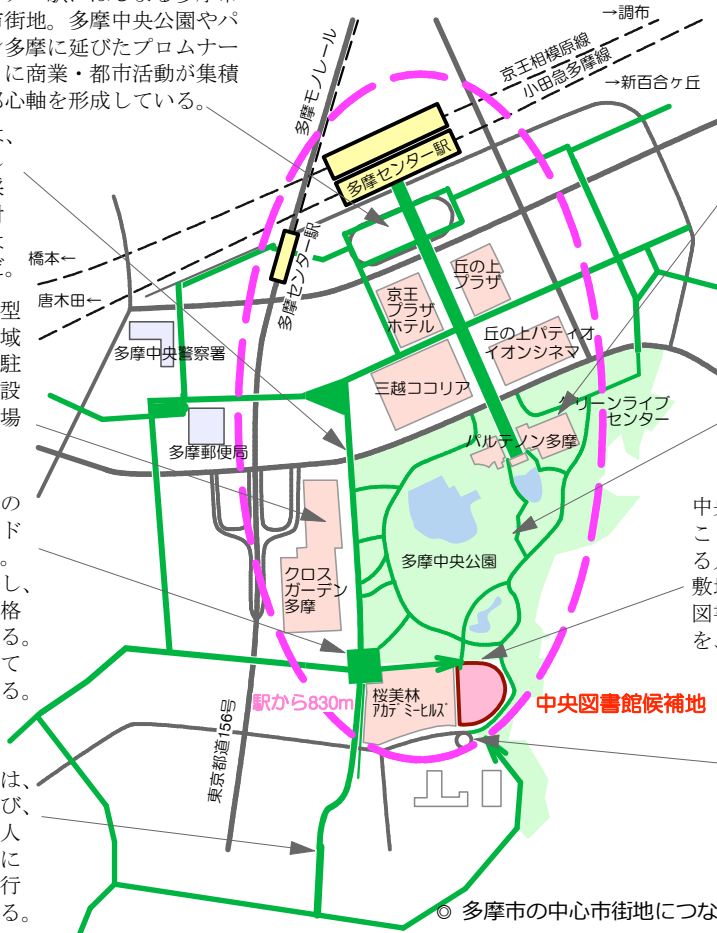
多摩センター駅にはじまる多摩市の中心市街地。多摩中央公園やパルテノン多摩に延びたプロムナード大通りに商業・都市活動が集積して、都心軸を形成している。

多摩ニュータウンの道路は、歩行者と車の動線が交差しない歩車分離システムが採用された。中心駅から放射状にのびる歩行者専用路は段差がなく安全な広場径だ。

歩行者専用路沿いには、大型商業施設が並んでいる。広大な商圈をもち、大きな立体駐車場を備えている。商業施設も、都市住民にとっては広場のひとつといえるだろう。

歩行者専用路、人や自転車の動線が集まる辻広場はノード（焦点）として計画された。人が集まり、出会い、休息し、また動き始める、都市の骨格空間のサテライトにも見える。さて、中央館候補地にとってアプローチ環境の前庭になる。

南に展開する歩行者専用路は、境界の集合住宅団地をむすび、川のように大勢の子供や大人を集めて、北の中心商業地に導いてゆく。新しくその道行きに中央図書館が構想される。



※出典：平成22年4月
多摩市立図書館協議会
「多摩市における中央図書館機能およびその整備のあり方について(答申)」より
「3. 中央図書館はどこに」敷地選定にあたり都心部環境との関係づけの記載を、策定委員会協議の基礎資料とした。

多摩市民だけでなく近隣の市民を集めるパルテノン多摩が、リニューアルされる予定。エレベーター設備も再整備されて、中央公園の高台にも、これからは行きやすくなる。多摩中央公園や新図書館へは、便利な最短のアプローチ径になることだろう。

多摩中央公園は、老若男女のひとが集まってくる。芝生に寝そべて、休日の情景をつくっている。池のある催事の広場としても魅力的だ。移築民家は集会展示の拠点となる。

中央図書館の正面は、公園に向くことだろう。公園を通り抜けてくる人、歩行者専用路を使う人も、敷地北側の前庭に集まるだろう。図書館はその賑わいの活動と表情を、公園側に情景として表出する。

敷地の南側には、袋小路クルド sack 式道路が取り付く。通過交通が発生しない道となる。図書館への車のアクセス、駐車場、サービス車が利用をされるだろう。この焦点にも、大廻りの歩行者専用路が合流して、公園につながる。

© 多摩市の中心市街地につながる中央図書館候補地のイメージ

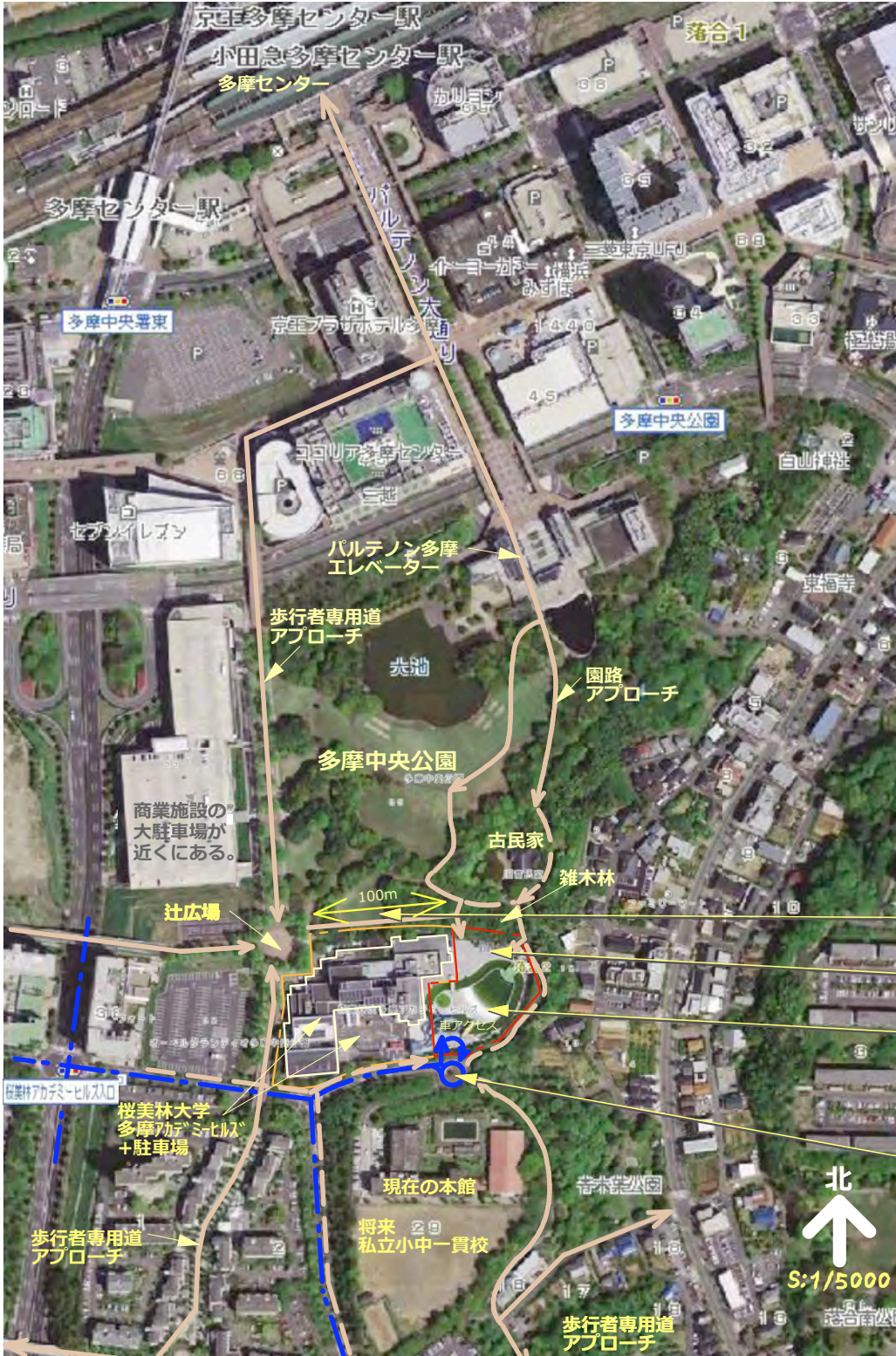
(3) 中央図書館候補地へのアクセスしやすさとイメージ

- 人のアクセス：多摩センター駅から敷地への距離は800m程で2ルートです。
 - ・公園西側に歩行者専用路（レンガ坂）があります。
 - ・パルテノン多摩のエレベーターが改良される予定で、中央公園内を通る道は、階段部の上り下りについても快適な散策ルートとして歩けます。
 - ・南地域にお住まいの方々も歩行者専用路で焦点の辻広場からアクセスできます。
- 車のアクセス：南側のサービス車道から、送迎や駐車や業務の車両が入ります。近隣の公共民間の駐車場も中心市街地ですから、境界に散在して利用できます。
- 駅から敷地までの循環ミニバスの運行も期待されます。



※湘南T市駅と図書館を結び循環するコミュニティバス。料金は一律150円。浦安では、同様の赤いミニバスが、駅から離れた浦安中央図書館の前まで循環しています。料金は一律100円。

※歩行者専用路の現状勾配がバリアフリー法の勾配規定を満たしているか検証してみたい。



3-4. 市民協働で「もの」と「こと」のデザインを

多摩市の中央図書館とまちづくりを、市民と図書館と一緒に考えてゆくべきです。施設づくりについて基本計画でも情報開示と学習型市民参画が大切。図書館づくりには、資料、職員、施設の3要素で議論をするのが常ですが、それぞれの要素中にも「もの/環境」と「こと/活動」が入っていて、大切な検討の視点になるのです。

多摩市の中央図書館の役割とサービスの中で、図書館協議会は提言をしています。定期的な利用者懇談会の開催や、市民企画展示、市民活動紹介、積極的な市民の意志の取り込みにふれて、その根本は、一人ひとりの求めや利用者ニーズに向き合う職員のあるべき姿であるとしています。そして職員の専門性と採用方式の重要性に視点をつなげて提言がされています。

※人の活動（こと）を深く想定しない施設建設は箱物政策と揶揄されます。基本構想や計画でも、箱（もの）から始まる議論に偏らず、「こと」に注目研究するのが、近年の図書館建築計画学の基本スタンスと言われます。

※出典：平成22年4月
多摩市立図書館協議会
「多摩市における中央図書館機能およびその整備のあり方について(答申)」
地域コミュニティの中核として、より

① どんな資料世界をつくるのか。

こうした議論や計画の前提には、求められている資料や、人や利用のかたちに想像をめぐらす時間があり、それが「こと」のデザインの段階です。

資料の収集では、新刊案内やリクエストを基礎に選書されたり分類が精査され、装備やMARCが決められています。これからは、5年先10年先の開架世界のビジョンを先に定めて、配架や分配を考え複本検討をしたり、構築の優先順序が必要になります。先に骨格を造りあとで肉をつける形式や工程の計画を考えるデザインです。100人の意見を聞くだけでなく、全体を俯瞰して判断する中枢・司令塔が重要で、それが中央図書館の存在理由となります。

② どんな施設環境をつくるのか。

場の計画の前提として、そこで想定されている活動や、はたすべき機能の量や質の概要を想定する必要があります。図書館施設計画の領分であり、もののデザインです。活動と施設は相関関係があって、施設の不備は活動やその将来の成長を制約して、施設の寿命を短くもします。ことは、ものより先に考えるべきです。他方、魅力的な環境は想像以上に活動を誘発し成長させることもあります。「こと」（出会いや発見や学びや喜び）のデザインは、容れ物である場とともに想像することで、創造的に膨らみます。例えば図書館では、いかに少人数で開架室を運営できるか、それが可能な施設かが、ランニングコストやライフサイクルコストのマネジメントに大きく関係します。経営に叶うことも必要です。

③ どんな図書館員が図書館サービスを担うのか。

図書館は75%が図書館員で出来ていると言われてきましたが、正確には、図書館政策であり職員組織であり図書館員個人の意欲とスキルに関わっているということです。基本構想策定委員会は、①図書館サービスを市の直営で行うことの利点②職員が専門性を発揮し職場全体で業務遂行③職員採用や作業内容に見合う職種の活用による人事計画性④専門性継承と将来に向けての持続可能な経営（業務や開館時間に関連）など、今後の研究に方向性と示唆を与えています。経営と人事に関わる「こと」のデザインです。

④ 主体的で自律した市民はどんな協働を想像するか。

多摩市の40年の図書館政策は、図書館を良く知りよく利用する市民を育てました。市民も生涯学習や自己実現を求めて、お話会や点訳朗読奉仕や催事の協働など、図書館での活動を広げました。中央図書館が出来ることで、より多くの多様な市民が、図書館で活動を展開するでしょう。こうした市民の生涯学習やボランティア活動をコーディネートする担当が図書館に必要です。また催事などでは市民の側にも、協働という「こと」のデザインを想像して展開させる、図書館フレンズのような活動もありそうです。



ライブラリーフレンズが「本のリサイクル市」



図書館パティオの日曜日「フリーマーケット」



学校図書館司書さんと一緒に「図書館研究会」



市民が「図書館の誕生日」を祝う

第四章 中央図書館づくりの進め方

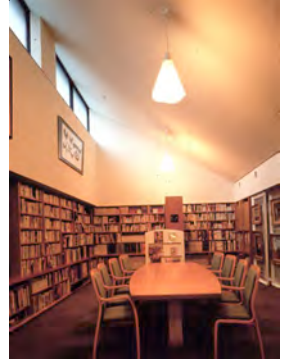
この章は、図書館サービスの軟らかな基本方針を概観する基本構想から、建設と運営の具体的なプログラムとしての基本計画に向けて、重要な視点と検討課題を整理して申し送りしています。

- 4-1. 図書館計画に欠かせない4つの視点
- 4-2. 資料世界構築と開架室の配架表現
- 4-3. 大切な図書館員の専門性と職員組織づくり
- 4-4. 機能的/快適/魅力的/経済的な施設づくり

4-1. 図書館計画に欠かせない4つの視点

多摩市の中央図書館機能の必要性とその整備のあり方について、図書館協議会は提言をしています。図書館システム全体を俯瞰しつつ以下のようにまとめています。基本構想の議論では、中央図書館が都市の賑わいや活力を持って活動する為には、単独機能より複合機能を押す声もありましたが、あらためて図書館の本質を考えると、専門性、広場性、歴史性・地域性、市民性がもとより備わっているのです。古来図書館は「ひろば」として、複合的に柔軟に、そして必ず専門的に造られます。

※出典：平成22年4月
多摩市立図書館協議会
「多摩市における中央図書館機能およびその整備のあり方について(答申)」2, 5,



7門/芸術の場のしつらえ。本を知る司書による選書と配架編集と表現、趣旨に沿った場のしつらえ。3つの専門性の総合化で場づくり

※図書館駐車場：参考例示される浦安は図書館廻りで280台、伊万里は170台。

① 資料・情報、職員・組織、施設・環境の計画と、それらを統合するという図書館計画には、3方面の「専門性」の総合化が必要です。

- 多摩市の新本館再構築計画で、一番難易度が高いのは、それぞれの図書館に役割分担して、図書を再配置し、主張性ある資料配架をどう行うかです。
- 二番目に難易度が高いのは、人の再配置に伴う各館の開館時間の調整など、市民的な理解と賛同が得られるか。共感を得られる道筋を歩けるかです。
- 新本館（中央館）の建築計画は、別記するような図書館建築に必要な条件を満足させるとともに、相当台数の駐車場が必要になるはずで、これらの複合的条件を候補となる敷地に構成配置できるかが課題となるでしょう。

② 多様な活動を受け入れ、人と資料と場をつなぐ計画には、自由かつ柔軟な場のしつらえの「広場性」と安全資料管理の両立が必要です。

- 開架室の資料に自由に接することができる図書館は、当初は目の届く小規模なものでした。CDや高価な写真集などが増え、形式的に出入口にBDSを付けただけの最近の図書館では盗難散逸がある割合で存在し、警察事件も生じます。BDSの誤作動も不愉快です。平面計画に安全管理性の視点が必要になっています。

※BDS：ブックディテクションシステム、本の持ち出し防止システム

- 開架室は、広場や大通りのような、行動自由な公共空間ですが、それだけに、何の計画配慮もなければ、騒がしさや落ち着きや多くの人が共通に快適な共存の環境をしつらえることが困難です。開館後にマナー遵守の張り紙が踊る開架室が、各地で生まれます。
- 多様な出会いがあり、かつ一人にもなれる。求められる環境です。



図書館の本質は広場だという

③ 多摩市の人々と地勢がつちかった「歴史性」「地域性」を収集して、統合する図書館資料計画には、全ての行政部門との連携が必要です。

- 多摩市は、ニュータウン以降と既存集落の歴史が、積み重なってできた街です。過去の地域の遺産、記憶を収集して、アーカイブのような働きにまで高めるには、学芸員や自然科学の研究者との協力関係づくりが必要です。
- パルテノン多摩の博物館学芸員や、文化財の担当者などとの連携により、子どもたちが育ってきた地域を学ぶ取り組みも重要です。
- 現在進行形の、まちづくりに関わる行政や議会の情報や地域のオープンデータの収集開示の連携も期待されます。近隣では、日野市の市政図書室が有名ですが、近隣市の出版物を毎年度に集めてきたストックは、体制づくりも含めて研究が必要です。



資料館と協働で縄文の遺物をショーケース書架に展示する

④ 人と資料と場の計画と、その企画・運営に、多様な意見を受け入れなければならない図書館計画の工程には、「市民性」が必要です。

- 学習型の市民参加が、各地の図書館づくりで試みられています。市民協働は行政からの情報やビジョン開示とセットになります。
- あらゆる施策について市民(公式な市民代表である市議会議員も専門的な市民代表です)に向き合うことが求められます。意見交換会に参加できない将来の市民の意見にも想像力が必要です。
- 図書資料構築については、デジタルデータに関心が動きますが、現物資料や語り部や専門的人材との出会いも、マルチメディアな図書館の出会いです。多摩には、文庫活動、お話し会の蓄積や民間の地域研究集団がありストックに繋がる協働も可能です。

※出典：平成22年4月
(3) 地域コミュニティの中核としてP8-②、③、④。



輪になって「あたらしい図書館」を話し合う

4-2. 資料世界構築と開架室の配架表現

多摩市の中央図書館や駅前拠点館、地域館では、どのような資料収集の方針を持つべきなのか、またそれぞれの開架室資料群を、どう構造化させ表現するのか、研究が必要です。現在の多摩市立図書館の蔵書構成や利用形態の特色と課題は明らかになっていますので、そこから中央館の開架室資料の在り方は、専門化、ワンストップ型、奥行き、ひろがり、など示唆されるところです。複数の研究委員会の立ち上げが望まれます。

- 多摩市では比較的低い資料予算にもかかわらず多様な図書購入がされている。
- それらは拠点館地域館に分散的に所蔵され、一図書館でアクセス出来てない。
- リクエスト数の多さは、一図書館での充足度が低いことが背景にある現象か。
- 専門的利用に、一箇所ですべての図書館の必要性が中央館に求められる。
- 本はどの分館へもリクエストで届けられるが、返却された館に留まっている。それは、バランス良く関係づけられた配架表現ができてない状態を意味する。

①. コレクション構築：各分野各主題資料/専門書/多摩市ならではの資料を長期的展望で収蔵と構築をしてゆきたい。

- 中央館の資料は広がりとお行きを持ち、ここにすれば一箇所ですべての予約取り寄せしなくても、ことが足りる資料世界構築をめざしたい。
- 地域館には、子どもには基本図書・絵本・読み物を複本として常備させ、一般は、動かない本を引き上げ基本的で新鮮な資料と新聞雑誌は揃えたい。
- 関戸公民館の市民活動情報センターには女性学図書群が図書館とは独立して配置してあります。市内施設に分散する専門的で魅力的な資料についても共通書誌MARCにのせ、所在検索がどこからでもできるようにしていきたい。

②. 開架表現：個々の資料収集だけでなく、資料が関係づけられ棚上で沿わされて、資料世界の主題が表現されていて欲しい。

- 資料を俯瞰でき、読書人でもある図書館員が、選書した本を組み立てて、開架室のゾーンやコーナーや連や棚を駆使して、世界を表現して欲しい。
- NDC分類がふさわしい場合もあるだろうが、資料形態をこえて総合化された現代の主題に合わせて編集された混配などの棚表現も試みてほしい。
- 専門的な雑誌は主題で分類配架をして、バックナンバーを長く主題開架に留めるなど、展示表現に工夫と柔軟性をもって魅力化をしてほしい。
- CDやDVDや漫画なども、主題で分類し、図書と並べ配架されている。
- 書店などの面陳など、陳列法を研究し、魅力的な資料展示を研究したい。

③. 相談業務：高度な専門性のレファレンスや図書館サービスの研究を。

- 個人の疑問や日常の課題解決など、クイックレファレンスも重要です。
- 地元企業、商店主、起業希望者、教員、行政、例示されているビジネス支援に留まらず、開架室全てを役立つ相談資料世界に組み立てて欲しい。資料提示に留まらず利用者と専門家を出会わせる機会提供につなげたい。
- レファレンスデスクの設置とレファレンス専門職の配置を行い、市民のさまざまな課題に応える働きを積極的に知らせるべきです。
- 市の行政や議員へのサービスを強化し、まちづくりにつなげるべきです。
- 全ての資料とサービスを「役立つ図書館」の認識につなげてほしい。

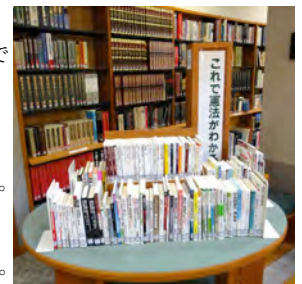
④. 資料保存：災害や温湿度に対応できて拡張性のある書庫機能を。

- 貴重な図書、地域資料の安全な保管場所を確保する必要がある。建築面積を増やさない積層書庫や可動集密書架など他市事例を研究したい。
- 20年～30年は増設に耐えられる順次拡張性のある開架書庫を構想したい。
- 和書や漢籍や文書、日本画、掛け軸など、図書につながる「もの資料」を補充収蔵できる調湿収蔵庫が図書館で併設された他市事例にも学びたい。
- 開架室と開架書庫だけでなく、利用者が入室して自分で本を探せる準開架や公開書庫についても、その使い方を含めて他市の事例を研究したい。
- 学校支援やアウトリーチサービスに対応する複本資料やメールサービスの資料を整理準備する地域サービス書庫を、機能的位置に集約的に配置する。



世界と歴史を集めた箱庭のような表現展示

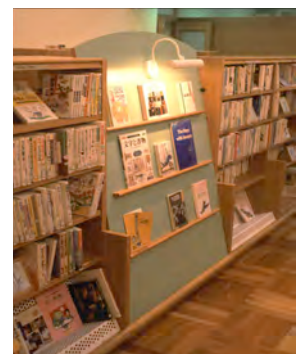
※カーリル：1-07頁説明
※MARC：ICTで自動判読ができる図書カタログ。
※NDC分類：日本10進分類法のこと。
※共通書誌：全市内の本を統一管理するカタログ。



憲法を主題にNDCを越えて編集



支援を前面に法テラスの机台



雑誌特集を沿わせて文学展示



震災・原発：地域が直面する課題に司書はアンテナを張りタイムリーな企画棚をつくる

※出典：平成22年4月
多摩市立図書館協議会
「多摩市における中央図書館機能およびその整備のあり方について(答申)」
に記載されていること。より

4-3. 大切な図書館員の専門性と職員組織づくり

多摩市の中央図書館づくりでは、今、現況を知り、目標を語り、共感を確かめる基本構想の道を歩いています。そして、次の段階は図書館基本計画という、具体化のためのプログラムをつくる大切な工程に進むこととなります。その大きな柱に、「運営体制づくりと事業コストマネジメント」施策の再編と精査が想像されます。基本計画と併行したシミュレーションが求められますが、ここでも繰り返して、図書館協議会の提言を書きとどめておくことにします。

- 中央図書館機能を実現するためには職員(司書)の資質の向上は緊急の課題。
- 利用者が満足するサービスに対応できるよう研鑽とスキルアップが必要。
- 専門的業務に携わる職員を専門職(司書)と位置づけて、専門性を考慮した職員採用の検討が必要。
- 中央図書館は、あらゆる情報を結ぶ場、情報提供の場、情報センター運営などの多様な要である。多摩市にも中央図書館ができること、また、今後も継続して多摩市が責任を持って運営することを強く望む。

①.市の直営による図書館運営、継続的な司書職員集団による図書館の運営を守るという目標の利点と意義を確認したい。

○公共図書館の管理運営については日本図書館協会が調査と意見表明をしている。

「公立図書館の管理運営の基本：公立図書館は、地方公共団体が設置し教育委員会が管理することが基本であり、運営やサービスを提供することは自治体の責務です。設置者が図書館の運営方針や事業計画を定め、図書館運営を評価します。これらはすべて図書館現場でのさまざまな経験から構築されるものです。図書館事業は継続性、安定性が求められ、常にサービスの向上を目指しています。このようなことから図書館の管理運営は自治体が直接行うものであり、これを他の者に行わせることは望ましいことではありません。」(出典：図書館雑誌2016. 11. VOL110. N011. P722.)

○上記の論考の背景には「教育基本法の前文」の社会教育の理念が伏している。そして、図書館政策のスタンスは地方自治体の社会教育の理念につながっている。

②.第一に職員の研修、専門性の向上を必要条件と考えて、段階的研修や業務に内在させた研修方式を研究したい。

○図書館業務の環境変化に機動的に対応するため、通常の職務分担に加えて、係組織の縦割りを横断するプロジェクトチームの編成連携方式を導入して、(企画展示チームなど)オールラウンドプレーヤー・多能工型の組織編成を研究したい。また、先進図書館と人事交換交流研修の有効性も検討したい。

③.現状の図書館運営に係る全体歳費を増大させることなく、人件費の縮減と資料費の拡大をめざす研究をしておきたい。導き出される年間資料購入費が蔵書構築の計画条件となる。

○ICT導入や人件費に関わる歳費縮減の研究については、業務の中に必要な後進への教育や伝達、研究といった時間の存在に留意したい。縮減は業務そのものの見直しが先になければならないだろう。このプロセスが学びの形であって欲しい。また、その際、職員の労働環境には配慮が必要である。

④.編成する職員の仕事分担、仕事時間の合理的な見直しにより、人件費総額についての課題の改善と、全市図書館の人的資源の再配分の方策を研究したい。

○正規職員、嘱託職員、非常勤職員、委託職員など、多様な背景を持つ職員が雇用される状況を踏まえて、新たな協働の体制を構築したい。その際、資質・能力・経験を仕事分担や待遇に適切に反映する仕組みの導入を研究したい。

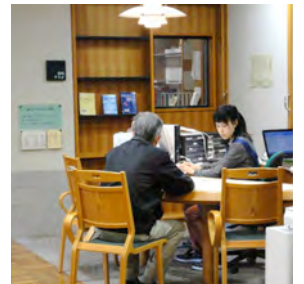
⑤.人件費の縮減は、ICTの活用や開館時間の見直しとも相関する。開館時間や曜日の調整をして、専門性を守りつつ歳費改革を果たした図書館先進国北欧の図書館運営の手法を研究したい。

○図書館先進国デンマークでは、日本より20年早く行財政改革の試練を越えた。図書館は公共による直営と職員の専門性を守りつつ、分館群の開館の曜日や午前午後に分けた時限開館で、財政課題を解決した。高齢化と過疎の影響は自動車図書館を休止させ、個別訪問車や宅配便奉仕に変化した。ICT環境も導入され、市民の日常的利用と図書館支持は依然として盛んである。

※出典：平成22年4月
「多摩市における中央図書館機能およびその整備のあり方について(答申)」
P8(4)職員のあるべき姿
P9の5.終わりに より



資料世界をつかって待つ司書



相談者の人生に向き合う司書



司書は現実にアンテナを張る

※人的資源の再編再配分では、パブリックコメントや策定委員の一部から、地域館の縮小につながるという反対意見、議論は必要だという意見があったので記録する。

4-4. 機能的/快適/魅力的/経済的な施設づくり

施設については、近年の図書館づくりでは共通して上記の目標が掲げられます。また、省エネルギー化やバリアフリー化については、新しい法律が整備され地方自治体の条例が細目を定めていますので、自動的に計画や設計がチェックされる体制ができあがっています。

表題の4項目の要点を整理するまえに、ここでも前述の図書館協議会の答申から、該当する文章を書きとどめておきます。

○図書館の設計にあたっては、利用者であるさまざまな市民の意見を聞くとともに、専門家の意見も十分に取り入れる必要がある。また、図書館建築に実績のある優れた設計事務所を選んで、使い勝手の良い、居心地の良い図書館を目指すことが必要である。

①. 機能的であること：

- 図書館建築は、成長し変化する図書館に対応して長期に審判されます。
- 図書館はその運営主体の意図によって千差万別ですから、その建築が機能的であるということは難しいことです。そして、当初の運営意図が変化して、建築は成長の邪魔をする困り物に成り下がるのが常です。機能的な図書館建築を手に入れるためには、設計に対して緻密な方針を与える条件プログラムを、図書館が準備することが一番大切です。
 - 基本計画で条件プログラムが準備されたら、聞く耳と理解する知見のある図書館建築を熟知した設計者を選定して、図書館をどうしたいか協議協働します。そして開館後も図書館の友人として付き合いします。
 - 図書館建築について語ることは楽しいことですが、図書館を図書館としてつくること、建築は大切だが目的ではないことを共感すべきです。

②. 快適であること：

- 図書館建築を考えると3つの快適が語られることになります。
- まず、利用者にとってのさまざまな快適が考えられます。さまざまとは、静かさを求める人、賑わい出合いを求める人、それぞれの行為にふさわしい快適さがあって、近接したり同居したりの折り合いが必要になります。グラデーションやゾーニングの工夫で解決が必要です。
 - 次に、本の居心地も課題になります。物理的な温湿度環境の調節の他、本の主題が求める場の気分、出会うべき人との舞台場面も大切です。
 - 地球環境にやさしい建築という視点では、CO₂の排出を少なくする、自然の気候を活用する工夫が、省エネの方針として取り入れられます。ガラス張建築が人気ですが、開架の南と西に大きな開口を造ることは、熱負荷と本の日焼から、かつての図書館建築ではタブーとされました。

③. 魅力的であること：

- 利用者をまた来たいと思わせることが、魅力的ということとを考えます。図書館として、ふさわしい機能と環境が必要条件としてあり、それが時間を経過して活動が成長したときに、古びないことが求められます。不易と流行と古来言われますが、言葉遊びの一人歩きや火花のようなはかない結末に、公共建築は注意を払います。
- 都市的で複合的で広場的な性格を持たせる共用部や、集会や展示機能のスペース、フリースペースは、機能や場が持つべき雰囲気は刻々と変化する特色に対応させて、わかりやすく魅力的にしつらえることが望まれるところです。

④. 経済的であること：

- 一番不経済なことは、施設が、機能や建築法令の変化に追いつけずに、建築の寿命を待たずに、取り壊しや建て替えになることです。活動の成長の方向性を予見して、可変性や拡張性を織り込んだ施設をつくるのが、いちばんの長寿命で経済的な建築と考えるべきです。また、運用に大勢の職員が必要な図書館建築の採用も不経済です。
- 建設と運用と修繕のトータルな費用をライフサイクルコストとします。建設など当初の投資費用をインシヤルコストといい、さまざまな低減の工夫がされますが、資金調達の大変な大きな金利負担も要注意です。エネルギー消費や施設の点検メンテナンスにかかる費用がランニングコストですが、事業手法によっては運用の人員費も計上されましよう。
- ランニングコストは、深夜電力利用など経済的な判断と、地中熱や井戸水や樹下の涼しい空気を利用する技術的な工夫が行われています。



僧院に似た図書館の中庭、静かな目と心の為に



ほっとする野外読書テラスのある図書館がいい



冬期には床暖房の「図書館のサンルーム」のギャラリーで 読書しながらお茶を飲みたい



積層する閉架書庫が開架室から見るとよい
下の層には利用者が入れる公開書庫がほしい



積層書庫の上の層には可動集密書架が必要だ
本が増えたら、順々に書架を増やせればよい

多摩市立図書館本館再構築基本構想策定委員会の経緯と構成

□ 基本構想策定委員会に併行するヒアリングや部会協議（委員会報告資料）

■ 図書館員(専門職集団)との意見交換・課題研究/策定委員会に職員研究会からの意見。

- △7/7. 第1回（話題提供：計画同人）・現状を図書館員が俯瞰議論する。・市民要望を館員から読み解く。
→ 「地域館/拠点館/新本館の今後」について、図書館員ひとりひとりの考えを策定委員会に届ける。
- △8/4. 第2回（講師に松本策定委員）・図書館協議会での議論と意見。・新図書館へ体制の脱皮に。
→ 「新中央館とは、他市の比較、あり方」について、図書館員としての課題の例示/ワークショップ。
- △9/24. 第3回（講師に常世田策定委員）・多摩市の図書館員有志の集まり・どんな日々の努力が大切か。
→ 図書館員としてどう学び直し、どう変わるか、図書館員としての課題への向き合い方
- △9/24. → H23「基本方針・運営方針」とH28「読書活動振興計画」を「本館再整備基本構想の基盤」として策定委員会は議論する。

■ 図書館協議会/教育委員会など（連携/政策集団）との 情報提示・意見交換 など

- △7/21. 子どもの読書活動推進計画市民連絡会ヒアリング：地域の文庫活動や地域館での活動から図書館を考える。
- △8/01. 企画政策/総務/教育部門と協議：行動プログラムの更新、財政展望・図書館人事・図書館施策の将来像。
- △8/25. 図書館協議会ヒアリング：二度の図書館政策の総括的提言、読書活動推進計画と市民反響後の追加的研究。
- △9/24. → H22図書館協議会「中央図書館整備のあり方答申」を「本館再整備基本構想の骨格」として策定委員会は議論する。

■ 学校図書館員/行政資料室など（連携/類縁集団）との 情報提示・意見交換 など

- △7/21. 学校図書館司書ヒアリング：学校図書館支援、教育支援、支援連携の展開←生徒一人利用密度と資料費、統計
- △7/21. 行政資料室ヒアリング：行政施策との連携（行政支援/行政文書受け入れ/チラシポスター/地域資料構築）
- △9/23. 学校図書館全体司書会ヒアリング：学校図書館の展望、中央図書館に望むこと、支援と連携について

■ 逐次：中央館開設や今後のサービス方針に関わる状況のヒアリング

- △ 図書館企画運営係報告：ボランティアの形、グループ状況、文庫連絡会との連携、障害者支援、
- ▽ 基本計画段階での確認：青少年支援、幼稚園保育園、包括支援センター連携、病院支援、福祉作業所、ボランティアコーディネートの展開/ブックスタート/共同参画/本のリサイクル/公民館図書室の展望/ほか、
- △ 図書館協議会や大妻女子大松本先生：広域利用や都市連携、大学図書館連携、公共図書館連絡会、
- △11/1. 経済観光課商工担当と協議：図書館のビジネス支援へのニーズ、多摩市の現在の創業支援施策と今後の展望

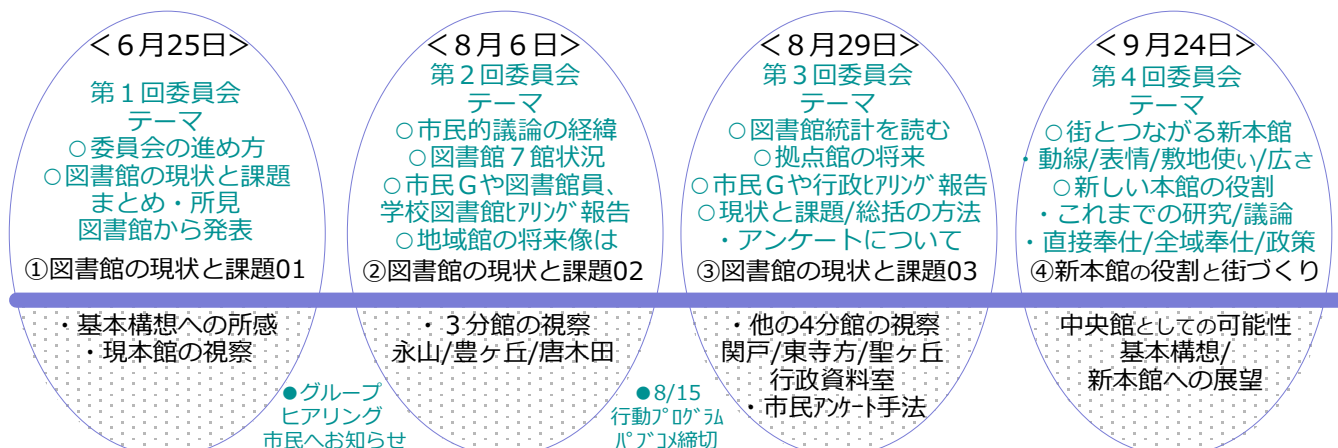
■ ご希望市民グループ/図書館研究市民グループなどとの 情報提示・意見交換 など

- △7/21. 多摩市に中央図書館をつくる会ヒアリング：中央図書館はなぜ必要か/図書館友の会への展望/今後の市民活動の連帯
- △8/09. 地域図書館の存続を考える会（4団体）ヒアリング △8/25. 多摩市の社会教育を考える会ヒアリング
- 9/24. 「公共施設の見直し方針と行動プログラム更新案に対する私たちの意見(パブリックコメント)」を策定委員会に提出。
- △8/25. 多摩おはなしの会ヒアリング、 ○おはなしシュッポポの9月定例会からご意見が届く、
- △9/24. → 「市政世論調査や各種アンケート」「行動施設の見直し方針と行動プログラム更新案へのパブリックコメント」「グループヒアリング」「説明会意見」など、これまでの図書館への市民意見をふまえ、原案素案への意見も積み重ねて、基本構想素案を策定委員会は議論する。

■ 市議会子ども教育常任委員会勉強会での情報提示・意見交換

- △11/10. ・基本構想策定委員会の進捗を館長が説明。検討資料の提出。各議員から質疑とご意見を伺う。

□ 基本構想策定委員会の構成と進め方



□ 基本構想策定委員会 委員構成

・任期：平成28年6月25日委嘱～平成29年3月31日

氏名	備考
ヤナギダ クニオ 柳田 邦男 (委員長)	学識経験者
トコヨダ リョウ 常世田 良	学識経験者
スズキ ミツル 鈴木 充	教育委員会委員
マツモト ナオキ 松本 直樹 (副委員長)	図書館協議会委員
テラサワ ヒトシ 寺沢 史	学びあい育ちあい 推進審議会委員
オナカ ノブオ 尾中 信夫	都市計画審議会委員
チバ マサノリ 千葉 正法	多摩市立小中学校長
ツジヤマ タエコ 辻山 妙子	多摩市民 (子どもの読書活動 推進計画市民連絡会)
アオキ ヨウコ 青木 洋子	多摩市民 (多摩市に中央図 書館をつくる会)
オオサワ タクミ 大澤 拓未	多摩市民 (成人式実行委員 から推薦)

□ 基本構想策定委員会の開催

- ・第1回策定委員会 平成28年 6月25日
- ・第2回策定委員会 平成28年 8月 6日
- ・第3回策定委員会 平成28年 8月29日
- ・第4回策定委員会 平成28年 9月24日
- ・第5回策定委員会 平成28年10月29日
- ・第6回策定委員会 平成28年11月20日
- 市民フォーラム 平成28年12月 3日
- パブリックコメント募集 12月3日～17日
(15日間)
- ・第7回策定委員会 平成29年 1月 7日

□ 基本構想 担当部局

多摩市教育委員会

教育長 清水哲也.
教育部長 福田美香.

□ 基本構想 事務局

多摩市立図書館

図書館長 中島 幸.

再構築担当 図書館主査 笹原亮志. 企画運営係 福島直紀.

図書館業務からの協力体制

総務係長 原田 憲. 企画運営係長 阿部玲子.

地域資料係長 藤田 純. 子ども読書支援係長 村野静香.

サービス係長 兼 豊ヶ丘・唐木田図書館長 栗崎佳津美.

東寺方・関戸図書館長 阿部明美.

聖ヶ丘・永山図書館長 大田真澄.

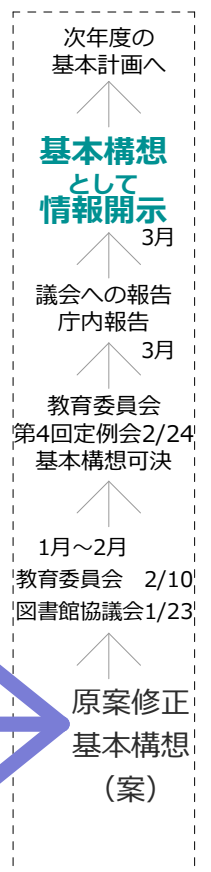
支援コンサルタント

(株)寺田 大塚 小林 計画同人.
寺田芳朗. 小林春奈. 中野寛之.

□ 市民フォーラムの開催



○12月3日午後6:30から、永山公民館ベルブホールで「多摩市立図書館本館再構築市民フォーラム」が開かれた。市民等の参加は102人。清水教育長挨拶、柳田邦男構想策定委員長の基調講演、委員会事務局の中島図書館長から基本構想の説明をした。7名の方から質疑と意見があった。多摩市立図書館のあり方をビジョンとして示して、中央図書館の意義と多摩市における必要性を確認し、今後の多摩市の図書館行政の方向性を、参加者と考える会となった。○基本構想原案は、市内各図書館、多摩センター駅出張所、関戸公民館、市の公式ホームページで市民に情報公開され、パブリックコメントが募集されたこと、今後の基本構想のまとめへのスケジュールが説明され市民参加を呼びかけた。



<10月29日>

第5回委員会
テーマ

- 新本館サービス
・課題解決型サービス
- 新本館の
キャッチフレーズ
あたらしい概念を

⑤サービスと施設環境への提案

新本館整備の方向性
基本構想/
新本館の将来像

構想素案
骨組み案

<11月20日>

第6回委員会
テーマ

- 蔵書構成を考える
・カーリル調査から
- ⑥本館/全域奉仕の経営
・選択と集中:時間マネジメント
職員再編成・施設管理
- 基本構想原案の確認

知の地域づくり
知の創造センター
図書館の枠を越えた
新しい視点

構想原案
途中原稿

基本構想
原案開示

●市民
意見交換
フォーラム
<12月3日>

<12月3～17日>

●パブリック
コメント募集
(15日間) 市民意見
状況報告

素案修正
→開示原案

<1月7日>

第7回委員会テーマ
<報告>

- 今後の策定委員会
- 市民フォーラム/パブリック概要
<審議>
- 構想案の修正
- パブリックへの見解
- 概要版の作成

上記の方針指示に沿い
15日でまとめ作業
委員郵送確認

おわりに

多摩地区の公立図書館は、永い間我が国の公共図書館活動を牽引する先進的な活動を続けてきました。とくに1970年代から1980年代においては都下の自治体には市民の支持を受け、高いサービス実績を記録する図書館が綺羅星のごとく存在していました。それらの図書館には個性的な名物図書館長のもとに意欲的な司書集団が形成され、お互い競い合ながら市民サービスの向上や図書館の在り方の改善に取り組んでいました。

多摩市においても当時の伊藤峻館長のもと「イトーイズム」といえるような、先進的な取り組みを行っていました。たとえば図書館未設置の町が少なくない時代に複数の図書館を設置し、市役所より早く電算の導入を図ったり、また独特の分類法を編み出し、柔軟な資料の管理を行ったり、さらにそれまで図書館において収集されなかった資料を集めたり、職員研修に工夫を凝らすなど、常に図書館改革に取り組んでいました。

これらの取り組みの結果、多摩市における市民の図書館利用は常に全国のトップレベルを維持してきました。

もちろん行政サービスが向上するには担当課の努力だけでは困難です。多摩市においては図書館現場の意欲的な取り組みとそれを支える首長部局との連携、そしてなによりも歴代の市長の政策が功を奏したと思われまます。

一般的な国民が図書館に対してイメージする「娯楽」「教養」のための本を借りる、という点については、図書館先進地域である欧米諸国なみとはいえないまでも、市民がほぼ満足するレベルにあるといえるでしょう。

一方、図書館から本を借りていない市民が約80%、本を借りずに図書館を利用している市民を加えても図書館を使わない市民が60%以上は存在すると思われまます。図書館を使わない理由の多くは「暇がない」ことだといわれています。つまり働き盛りの市民の利用が少ないといえます。しかし世界の未曾有の変化に直面し、不況、介護、子育て、地域問題など未経験の課題に「自己判断自己責任」を迫られている「暇のない」市民にこそ、解決のための知恵が必要とされています。

さいわい多摩市の図書館には高度な情報提供サービスを可能とする専門職集団が存続していますし、市民の身近に複数の図書館が配置されています。いわば名医のいる街角の医院が多数存在しているようなものです。さらに名医をバックアップする大学病院があれば医療態勢は完璧となります。当委員会に付託された役割は、いわば街角の医院とそれをバックアップする大学病院の関係のような、分館、地域図書館と中央図書館のあり方を検討することであったと思います。当基本構想の目的は、新しい中央図書館が従来型のサービスをさらに充実させるとともに高度な情報提供や市民の多様な活動や交流を可能とする空間を提供し、分館、地区図書館をバックアップすることで多摩市の市民の生活を安全、豊かにし、自己実現を後押しすることにあります。

当基本構想において示された方向性は、我が国の図書館では未だ充分には実現されていないものです。実現すれば、公共図書館の「多摩モデル」と呼ばれるものを創る試みであるといえるでしょう。当基本構想が、これから策定される諸計画作成の際に大きな方向性を示すことができると信じております。

会議開催時に市長には複数回お運びいただきました。教育長にも毎回のようにお出でいただきました。通常あり得ないことであり当会議の重要性を改めて認識いたしました。

自治体において開催される各種の審議会では、いわゆる当て職の委員が多く本音の討議が行われないことが少なくないのですが、当委員会では委員長はじめ委員のみなさんの多摩市に対する愛情にあふれた本音の討議が毎回展開されました。

しかしそのために委員長はじめ多くの委員からの提案で会議の回数が大幅に増加し、しかも会議が休日の夜半まで及ぶこともあり、事務局等の関係者には大変なご苦労をお掛けしました。委員会を代表して関係者のみなさまに心から御礼を申し上げます。

多摩市立図書館本館再構築基本構想策定委員会委員
常世田 良

多摩市立図書館本館再構築基本構想

発行年月 平成29年3月発行

編集・発行 多摩市教育委員会

教育部 図書館

多摩市落合2-29

電話 042-373-7955

印刷番号 29-51

頒布価格 140円